

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和7年度12月号

○ 概要

(1) 令和7年度12月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は7,977億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+2.7%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は10,230円（伸び率+9.0%）であった。（→P.1,2）

調剤医療費の内訳は、技術料が2,112億円（伸び率▲2.4%）、薬剤料が5,849億円（伸び率+4.7%）、薬剤料のうち、後発医薬品が1,080億円（伸び率▲3.6%）であった。（→P.4,5）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,708円（伸び率+9.6%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.85種類（伸び率▲0.0%）、28.8日（伸び率+8.9%）、70円（伸び率+0.6%）であった。（→P.8,9）

(3) 内服薬の薬剤料4,451億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+143億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の844億円（伸び幅+37億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+70億円（総額624億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	4,451億円 (+143億円)	39 その他の代謝性 医薬品(844億円)	21 循環器官用薬 (651億円)	42 腫瘍用薬 (624億円)
0歳以上 5歳未満	21.2億円 (▲4.1億円)	44 アレルギー用薬 (4.7億円)	22 呼吸器官用薬 (3.8億円)	62 化学療法剤 (3.6億円)
5歳以上 15歳未満	127.2億円 (▲3.6億円)	44 アレルギー用薬 (34.4億円)	11 中枢神経系用薬 (32.1億円)	62 化学療法剤 (19.0億円)
15歳以上 65歳未満	1,717億円 (+54億円)	39 その他の代謝性 医薬品(323億円)	11 中枢神経系用薬 (315億円)	42 腫瘍用薬 (209億円)
65歳以上 75歳未満	856億円 (+6億円)	39 その他の代謝性 医薬品(193億円)	42 腫瘍用薬 (159億円)	21 循環器官用薬 (141億円)
75歳以上	1,730億円 (+91億円)	39 その他の代謝性 医薬品(315億円)	21 循環器官用薬 (313億円)	42 腫瘍用薬 (251億円)

(4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では10,230円（伸び率+9.0%）で、最も高かったのは北海道（12,209円（伸び率+9.8%））、最も低かったのは佐賀県（8,771円（伸び率+6.9%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは和歌山県（伸び率+10.5%）、最も低かったのは島根県（伸び率+5.2%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注1)}	91.8 %	+1.0 %
薬剤料ベース（新指標） ^{注2)}	79.2 %	+2.2 %
後発品調剤率	81.7 %	▲2.4 %

注1) 〔後発医薬品の数量〕 / (〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量]) で算出。

注2) 〔後発医薬品の薬剤料〕 / (〔後発医薬品のある先発医薬品の薬剤料〕 + 〔後発医薬品の薬剤料]) で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲3.6 %	+4.9 % (75歳以上 80歳未満)	▲20.9 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース、新指標）	79.2 %	87.6 % (100歳以上)	68.5 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	91.8 %	94.3 % (0歳以上 5歳未満)	90.8 % (80歳以上 85歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	924 億円 (▲22 億円)	21 循環器官用薬 (277 億円)	11 中枢神経系用薬 (162 億円)	23 消化器官用薬 (100 億円)
0歳以上 5歳未満	9.2 億円 (▲1.6 億円)	44 アレルギー用薬 (3.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.8 億円)	62 化学療法剤 (1.8 億円)
5歳以上 15歳未満	22.2 億円 (▲6.7 億円)	44 アレルギー用薬 (10.5 億円)	62 化学療法剤 (3.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.1 億円)
15歳以上 65歳未満	327 億円 (▲15 億円)	21 循環器官用薬 (78 億円)	11 中枢神経系用薬 (77 億円)	44 アレルギー用薬 (33 億円)
65歳以上 75歳未満	179 億円 (▲4 億円)	21 循環器官用薬 (66 億円)	11 中枢神経系用薬 (23 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(21 億円)
75歳以上	387 億円 (+6 億円)	21 循環器官用薬 (132 億円)	11 中枢神経系用薬 (60 億円)	23 消化器官用薬 (51 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~59）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,385 円	1,809 円(北海道)	1,174 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+2.2%	+4.4 % (宮城県)	▲2.8 % (徳島県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	91.8 %	94.9 % (沖縄県)	89.5 % (東京都)
新指標による後発医薬品割合（薬剤料ベース）	79.2 %	84.3 % (鹿児島県)	74.3 % (徳島県)
後発医薬品調剤率	81.7 %	85.1 % (熊本県)	78.5 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和7年度12月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。